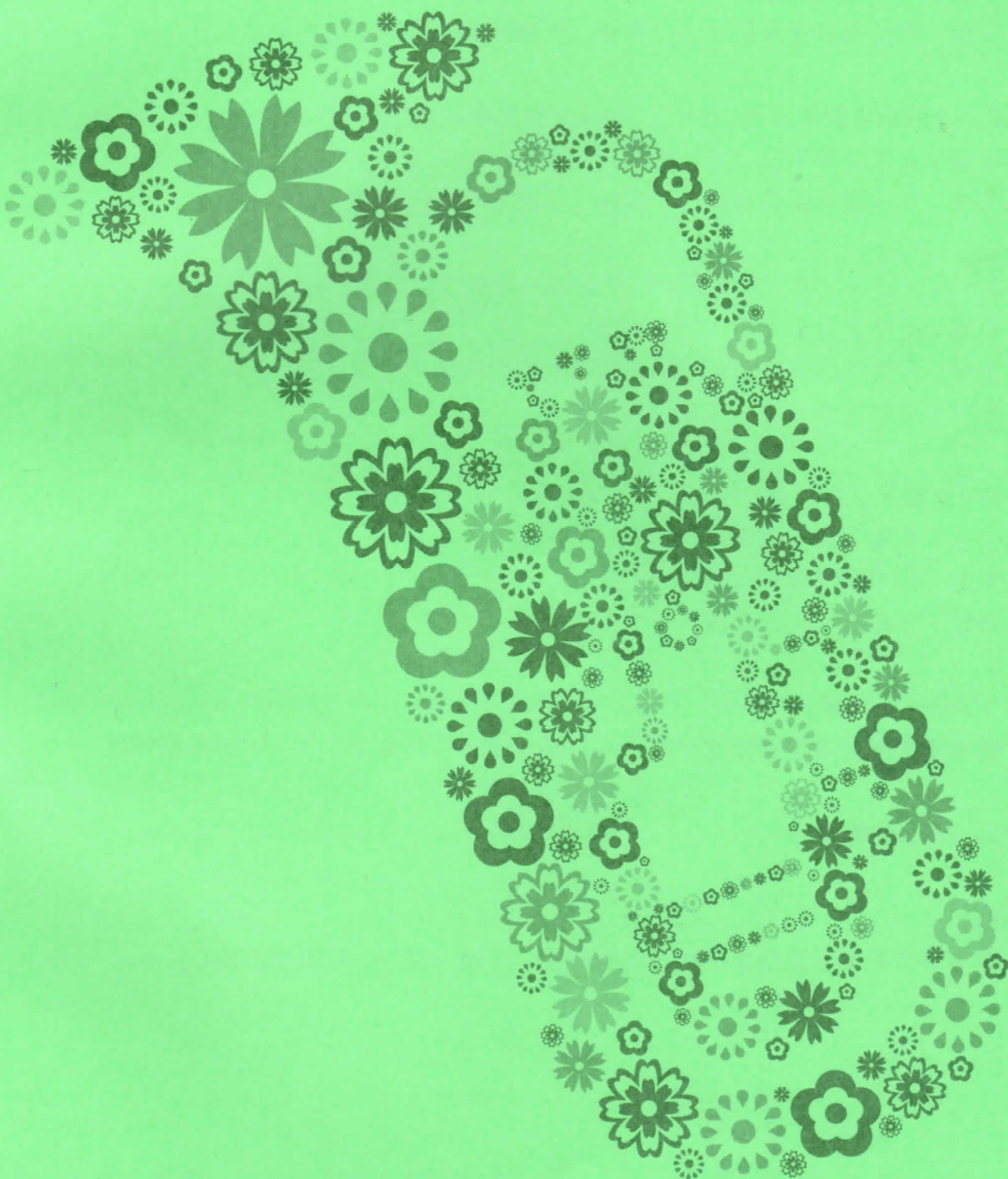


栃木県吹奏楽連盟＜季刊＞広報誌 平成25年度 2号

吹奏太郎





目 次

★ 理事長 巻頭言 「一年を振り返って」	1
栃木県吹奏楽連盟理事長 石塚 武男	
★ 1. 第19回東関東アンサンブルコンテスト出場団体の感想	2
平成26年1月25日（土）26（日）実施 主催：東関東吹奏楽連盟 会場：千葉県君津市民文化ホール	
★ 2. 第14回栃木県吹奏楽ソロコンテスト参加者の感想	2
平成26年2月1日（土）実施 主催：栃木県吹奏楽連盟 会場：宇都宮市文化会館 小ホール	
★ 3. JBAソロコンテスト関東甲信越支部大会参加者の感想	5
平成26年2月23日（日）実施 主催：公益社団法人日本吹奏楽指導者協会関東甲信越支部 会場：東京音楽大学Jスタジオ	
★ 4. 宇河支部スプリングフェスティバル報告	6
平成26年2月11日（火・祝）実施 主催：栃木県吹奏楽連盟宇河支部 会場：宇都宮市文化会館 大ホール	
★ 5. コンサート情報	7
栃木県吹奏楽連盟加盟団体から広報部に寄せられたコンサートの情報です	
★ 6. クリニック情報	8
★ 編集後記	
栃木県吹奏楽連盟副理事長 広報部長 三橋 英之（作新学院高校）	





「一年を振り返って」

栃木県吹奏楽連盟理事長 石塚 武男

今年度も終わるかな・・・と、思うと同時に県連盟として計画を立てたことが、どこまで成し遂げられたかを考えるものがあります。

まず、コンクールはどうだったかな？

「他県と比較して、小学校は低迷だ、中学校もだ。高校はまずまずだった。一般は？」と、感じましたがどうだろうか。

指導者の皆さんも、色々と反省することがあるかと思いますが、「部活動をやるのに環境が整っていない、時間とか資金面でうまく行っていない」と、つい愚痴をもらしてしまうことがあると思います。しかし、「ご自分の熱意や子供たちの熱意はどうだったろうか」と、振り返ってみると、今となると、もっと頑張りを出しておくべきであったと、誰しも思うものです。日々のちょっとした熱意と継続が大きく結果を左右することなのです。少ない部員や、少ない時間、少ない資金であっても熱意を強く傾けるならば、必ずや汚名返上して未来に希望が開けてくることと思います。

コンクールの結果はともあれ、それまでに子どもたちと練習をした過程や、子どもたちと苦しみ、喜び、音楽が好きになる子どもが一人でも多くなれば、教育者として大きな生き甲斐を感じることとなることでしょう。

この1年、県連盟の活動としては、東関東コンクール高B・小学の部の県開催、県のコンクール6日間、各支部のフェスティバル、アンコン、ソロコン、県講習会等と、一年中を通してめまぐるしいほどの行事をこなす事ができたと思います。その中でも、前回の県講習会では千葉県立幕張総合高等学校吹奏楽部を招き、弦楽器を導入した活動の運営と音楽づくりに感動し、皆さんも大きな衝撃を受けたことでしょう。今年度、最後の行事の県講習会には茨城県常総学院高等学校吹奏楽部を招き、交流と生の演奏会を楽しみたいと思います。

これも、役員の皆さんはもとより、行事に携わって下さった方々の、並々ならぬ努力とご協力のお陰であると、心から感謝を申し上げるしだいです。

来年度も元気な栃吹連、団結力のある栃吹連、皆さんの栃吹連として発展できるよう、私も熱意を持って携わって行きたいと思いますので、ご協力をお願い致します。

(平成26年3月6日記)



第14回栃木県吹奏楽ソロコンテストの参加者の感想

「栃木県吹奏楽ソロコンテストに参加して」

日光市立今市第三小学校 6年 青木 ゆり

私が、『ソロコンテスト』を知ったのは5年生の時です。一緒に頑張ってきた友達を応援に行きました。ピアノの伴奏に合わせて堂々と演奏している姿をみて、とても感動しました。

そして6年生になり「ソロコンテスト」の舞台に立つことになりました。最初は、自信もなく不安でいっぱいでした。でも、もうこんな演奏する機会はないかもしれないので、頑張ろうと思いました。上手く吹けなくてもあきらめませんでした。2年生から今までブラスバンド部で顧問の先生や先輩から教えていただいたことや、仲間とどうしたら良い演奏ができるかと考え練習に励んできたことを思い出し毎日練習しました。



大会当日をむかえました。いつも一緒に演奏していた仲間がいないので今日は一人で演奏しなければと思い、それまでに感じたことないほど緊張してしまいました。しかし演奏が始まるとだんだん楽しい気持ちになってきました。少しミスをしてしまったけれど、心をこめて演奏することが出来ました。結果「グランプリ」をいただき自分に自信を持てるようになりました。

私は、応援に来て一緒に喜んでくれた仲間がいる今三小ブラスバンド部が大好きです。これからも感謝の気持ちを忘れずに、「一つ一つの音に心を込めて」演奏していきたいと思います。

「第14回 栃木県ソロコンテストに参加して ～マリンバへの想いをのせて～」

日光市立大室小学校吹奏楽部部長 6年 藤井 李佳

私は、マリンバが大好きです。吹奏楽部でパーカッションに所属していて、曲ごとに様々な打楽器を演奏します。スネアドラム、バスドラム、シンバル、ティンパニー、チャイム、グロッケンなどなど。でも、やはり一番好きなのは、マリンバです。今年は、ドラムセットを購入してたくさん練習し、楽しんで演奏できるようになりましたが、私のNo.1は、マリンバなのです。

私が3年生の時、6年生のことりちゃんがソロコンテストに出場しました。私の憧れのことりちゃんが、私の大好きなマリンバで、トルコ行進曲という曲を楽しそうに演奏していました。そんなことりちゃんを見て、『私も6年生になったら、絶対にマリンバでソロコンテストに出たい。大好きなマリンバをみんなの前で演奏したい。』と思うようになりました。

5年生の時のアンサンブルコンテストでは、6年生チームに混ざってマリンバを演奏しました。とても難しい曲でしたが、6年生にいてねいに教えてもらい、一生懸命練習したら、素晴らしいハーモニーがうまれました。私はますますマリンバが好きになりました。

6年生になり、下級生に教える立場になりました。コンクール曲はマリンバが大活躍する曲です。私だけではなく5年生のれなちゃんや4年生のかほちゃんもマリンバを演奏することになり、練習にも熱が入りました。私がマリンバを好きな理由の一つに、『マリンバ独特の深い音色の素晴らしさ』があります。その独特の音色を二人にも好きになってほしいので、一つ一つの音を叩くときに、いい音を響かせることができるように、ていねいにていねいに演奏するよう教えました。すぐには無理だったけど、一週間位たつと二人ともいい音で演奏できるようになりました。自分ができるようになるのも嬉しいけれど、私が教えた人がうまくなる方がずっとずっと嬉しい気持ちになることがわかりました。

ついに6年生で、ソロコンテストに出場することになりました。もちろんマリンバを演奏します。曲は「グラナダ」というカッコいい曲です。初めてc dを聴いたときは、とても難しく演奏できるようになるのかとても不安でした。4本のマレットで演奏するところがあり、とても難しく音ミスが多くなります。だから私は、たくさんたくさん練習しました。

ついにソロコンテストの日になりました。仕事が忙しいお父さんやお母さんも応援に来てくれました。一番難しいところがうまく演奏できたので、最後まで楽しく演奏できました。表彰式で、『金賞』と言われてホッとしました。その後、『準グランプリ』で名前を呼ばれてとても嬉しかったです。少しくやしい気持ちもありましたが、練習の成果を十分に出せたので、本当に嬉しかったです。

もうすぐ小学校を卒業しますが、中学校に行っても、大好きな仲間たちと大好きな吹奏楽を続けていきたいと思っています。私の一番好きなマリンバも、もちろんずっとずっと続けていきたいと思っています。



JBAソロコンテスト関東甲信越支部大会の参加者の感想

「JBA関東甲信越支部 第12回中学生・高校生 管打楽器ソロコンテストに参加して」

栃木県立真岡女子高等学校 1年 高松 真紀

「何か新しいものに挑戦したい！」そう思いながら高校生になった私が挑んだものは「ソロ」でした。

人生初のソロに選んだ曲は、クラリネットの音域の広さと技巧が駆使されている、とても聴きごたえのある曲でし

た。最初のカデンツァやクライマックスの連符には技術力が、中間部のなめらかなところには表現力が必要となってきます。そんな難易度の高い曲ですが、毎日の粘り強い練習と先生方のアドバイスをともに、曲を自分らしく仕上げることができました。

県大会では、練習の成果を発揮することで、準グランプリをいただくことができました。

関東甲信越大会では、いつも支えてくれる方々への感謝の気持ちを音楽の中で表現することを一番考えて演奏しました。すると、県大会のときよりも響きを楽しみ、客席を見渡せるくらいの余裕ができました。とにかく楽しい4分間でした。また、自分の演奏が終わり、他の人の演奏もたくさん聞くことができました。みんな難しそうなお曲を堂々と演奏していて、圧倒されました。

今回ソロコンテストに参加することで、私は、日頃からたくさんの人に支えられていることを改めて実感することができました。残念ながら結果は優秀賞でした。しかし、今回の経験を出発点とし、今後「初心忘るべからず」で、レベルアップに日々精進していきたいです。

「ソロコンテストに出場して」

市貝町立市貝中学校 2年 古川 真朱

私は2月23日に東京音楽大学で行われたJBAソロコンテスト関東甲信越支部大会に参加しました。

県大会で納得できなかったところを繰り返し練習し、自分にとって最高の演奏ができるように努力しました。私が演奏した曲はテンポの変化が激しい曲なので、それを生かした表現を心がけました。また、出だしの部分は力強い表現を工夫しました。

本番前は、緊張して不安な気持ちになりましたが、曲が進んでいくにつれて「今までやって来たことを表現しよう」という気持ちで演奏に集中することができました。本番を終えた時は、ホッとしたと同時に、練習通りの演奏をすることができなかったことに悔しい気持ちがこみ上げてきました。

今大会で、他の出場者の演奏を聴いて、細かい部分まで丁寧に曲を仕上げていることに驚きました。このことから、自分に厳しく練習するということを学びました。また、努力は人を大きくするという、相手と競い合うことでお互いに進歩できることがわかりました。

今まで、大好きなフルートを吹くために協力してくれた人たちに感謝し、これからも努力していきたいと思います。



「第12回 J B A 関東甲信越支部 中学生・高校生管打楽器ソロコンテストに参加して」

栃木県立矢板東高等学校 尾方 優佳

「グランプリは、プログラム19番 尾方優佳さん。おめでとうございます。」県大会での結果発表の瞬間、自分の耳を疑いました。そして、今までにない喜びが沸き起こってきました。

私はこれまで、何度かソロの大会に参加してきました。しかし、自分が納得のいく結果を残したことはありませんでした。今回の吹奏楽連盟のソロコンテストも、練習を始めた頃はあまり自信が持てなかったように思います。ある時、ACミランで活躍する本田圭祐選手の「世界で一番練習すれば、世界一になれる。」という言葉聞いて、私は感銘を受けました。そして、「栃木で一番練習しよう。そうすれば、私も栃木一になれるのだ。」と自分に言い聞かせました。その日から毎日、時間の許す限りクラリネットの練習に励みました。グランプリ、そして県代表が決まった時は、達成感でいっぱいでした。

そして、関東甲信越大会当日。この大会は、一年前から目標にしてきました。本番では、今までやってきたことを出し切ろう、いつも通りに吹こう、と思っていました。しかし、緊張から指が軋んでしまい、後悔が残る演奏となりました。せっかく目標としてきた場所に來られたのに、そこで自分の目指す演奏ができなかったのが一番悔しいです。次の舞台では、持っている力をすべて出し切りたいです。

これからも、「練習は自分を裏切らない」の言葉を信じ、聴いている人に感動を与えられる演奏を目指して、頑張っていきたいです。

「ソロコンテストに参加して」

鹿沼市立東中学校 山本 佳奈

私は小学校の時、吹奏楽部でクラリネットを4年間担当していました。中学校に入学してからはオーボエに挑戦することになり、日々練習に励んできました。私のいる鹿沼市立東中学校は、80名を超すオーケストラの学校です。オーボエは、オーケストラではとても重要なパートで、今年からはその首席オーボエを担当しています。今回のソロコン出場に関しても、オーケストラ全員から応援していただきました。またアンサンブル活動も盛んで、木管五重奏のメンバーとしての演奏活動も始めています。

仲間からの応援を受けてのソロコンテストでしたので、県大会で自分の力を発揮できたことは何より嬉しかったです。

す。そして、念願の金賞を受賞し、準グランプリまでいただいた時には、応援に来てくれた友達と家族が涙を浮かべて喜んでくれました。次の日学校に行ってから、先生や他の仲間からかけられた言葉やガッツポーズに喜びが倍増しました。また、生まれて初めて頂いたトロフィーと賞状に感動しました。

次は関東甲信越支部大会でした。県大会が終わってからも練習を続け、最高の演奏が出来るように努力を重ねました。県大会の審査員の先生から頂いた講評を何度も読み直し、自分の演奏の弱点を克服できるように練習しました。しかし、あまり多くの舞台を経験したことのない自分にとって、関東甲信越大会でソロを演奏することは大きすぎることであったのかもしれません。本番では、なぜかいつもと同じように演奏ができませんでした。終わったときには悔しい気持ちばかりが込み上げてきて、自分の未熟さを知りました。

自分の演奏の後には、他の参加者の演奏を最後まで客席で聴きました。上手な演奏を多く聴くことができて良かったと思います。そして、今度はオーケストラのソロで関東、そして全国の舞台に立ちたいという目標を持つことができました。

「夢への一步」

日光市立今市中学校 3年 石橋 佳子

この度のソロコンテストでは、グランプリという素晴らしい賞をどうもありがとうございました。

私は、この日のステージのことだけを考えて、毎日練習に打ち込んできました。「自信を持って！心から歌うんだ！」と私は自分に何度も言い聞かせ、舞台へ向かいました。

本当に短かった4分間。勝負を懸けた演奏は、あっという間に終わってしまいました。

「柔らかく美しい音色」を意識できたものの、緊張から思うような演奏が出来ず、悔しさに思わず涙が溢れました。いつもなら、仲間と共に闘ってきたステージですが、ソロでは一人きり。誰も頼る人がいないことの厳しさや難しさを改めて思い知らされました。

そんな悶々とした気持ちのままの表彰式でしたが、代表に選ばれてほっと一息。グランプリの発表で「18番・・・」と呼ばれた瞬間、熱いものが込み上げてきました。さっきの後悔の涙とは全く違う、嬉しい涙です。本当に嬉しかったです。

しかし、私はこの賞をいただけるような最高の演奏をすることができませんでした。この結果に満足することなく、もっともっといい演奏ができるようになりたいです。

私はこの3月今市中学校を卒業し、サキソフォンの勉強をするため音楽の道に進みます。中学校に入学してから始めたサキソフォンですが、心からこの楽器が大好きで、誰よりも上手になりたいと思っています。厳しい道だと分かっていますが、更に技術を磨き、様々な音楽に触れ、人を感動させられるような演奏が出来るよう、日々精進していきたいと思っています。

そして、素晴らしいサキソフォン奏者になるという夢を必ず叶えます。

「第12回中学生・高校生管打楽器ソロコンテストに参加して」

栃木県立佐野高等学校 2年 佐瀬 珠奈子

私は中学1年の時からフルートを始めました。今まで色々なソロのコンクールに出場してきましたが、良い結果を出せたことは一度もありませんでした。それでも吹くことが楽しくて、努力し続けました。今までの悔しさを胸に県ソロコンテストに参加し、準グランプリと県代表の切符を頂くことができました。正直嬉しいというよりも信じられない気持ちでした。

しかし、関東大会を前にした練習で、思うように吹けない日々が続きました。そんな時ピアノ合わせで、準グランプリが重圧になっているのではないかと、言われてはっとしました。どこかで良い結果を期待している自分。それは、今までのたくさん失敗を重ねた私と全く変わっていませんでした。

迎えた本番当日、音出し部屋では当たり前ですが上手な人たちばかりで緊張しました。そして、友達や部活の仲間、先生、親からの多くの励ましの言葉を胸に舞台上がりしました。私は恩師の「練習は120%、本番は80%」という言葉思い出して心を落ち着かせました。自分のやってきたことを信じよう。音楽に集中しよう。東京音楽大学スタジオは小さいけれどよく響くホールでした。足が震えていましたが、自分のすべてを出し切れた演奏ができ、今までの自分からまた一歩成長できた気がしました。しかし、全国大会に進めなかったのも、自分にはまだまだ足りない部分があることを痛感しました。この経験を大いに生かし、いつか、私を支えてくれるたくさんの人に恩返しができるような音楽を目指して、これからも練習に励みたいと思います。





第19回東関東アンサンブルコンテストに出場団体の感想

「夢だった東関東大会」

日光市立大沢小学校 6年 Cor 山越 怜佳

栃木県代表「日光市立大沢小学校」。アナウンスが流れ私たちの演奏が始まった。

『まさか私たちが東関東大会に出場できるとは、思ってもみませんでした。私たちの目標はまず県大会に出場することでした。昨年0.5点差で負けたこともあり、今年は絶対に代表になりたいと思っていました。県大会に出場できたことが、うれしいと言うより信じられない気持ちでした。そして今度は県代表になって東関東大会に出場することが目標に変わりました。』

その夢がかなうようにたくさんの練習を積み重ねました。先生に何度となく注意されたり、しかられたりすること数多くありました。5人のタイミングが合わずに話し合いを続けることもありましたが、音だけでなく心が一つになるよう努力してきました。』

演奏が始まれば、思ったよりもみんな冷静だった。ハーモニーの役割、ソロの部分、アインザッツを当てる。めまぐるしく曲は進み、私たちの5分間が終わった。ベストの演奏ではなかったけれど、今までやってきた表現はできた。結果は初出場初金賞。泣いているメンバーもいた。やっぱり練習はうそをつかない。今までたくさん努力してきてよかったと思う。中学校でももっとレベルを上げていろんな大会に出場したいと思う。

日光市立大沢小学校 教諭 星野 淳

以前の本校は市内の発表会でも申し訳なさそうに演奏し、淡々と時間が経過するような舞台でした。でも子どもたちは常に「上手になりたい」「上の大会にいつかみたい」「すごいって言われたい」と思っています。その思いが日々の練習に結びつき、今回の東関東大会出場という結果になったのだと思います。

特別な子も、特別な練習もありません。小学生は全員が初心者です。わずか1、2年で驚くほど上達します。あきらめずに体力の限りがんばり続けたいと思います。

最後に栃木県代表の小学校5チームすべてが金賞を受賞する快挙を達成したことは今後の活動につながると思います。



「第19回東関東アンサンブルコンテストに出場して」

國學院大學栃木短期大学 室内楽研究会 部長 2年 野澤 はるか

わたしたちは、千葉県の君津市民文化ホールにて行われた、第19回東関東アンサンブルコンテスト(大学の部)に出場させていただきました。

演奏が終わった瞬間のあの音の響きは、今でも忘れることができません。しかし、ここまでの道のりは、決して楽しいことばかりではありませんでした。アンサンブルは少人数であるからこそその課題があり、何度も壁にぶつかっては、チームで話し合いを重ね、自分たちの音楽を創りあげていこうと努力して参りました。ときには、「本当にわたしたちが代表で良いのだろうか?」と感じてしまうこともありました。練習も上手くいかない日ばかりで、不安が大きくなる一方で。それでも、顧問の早川先生をはじめ、たくさんの先生方やサークルの仲間に支えられ、少しずつではありましたが、前に進むことができました。

東関東大会当日は、慣れない環境の中での演奏でしたが、各々の持つ最大限の力を出し切ることができたと思います。緊張しなかったといえば嘘になりますが、楽しさが優っていたという実感がありました。そして銀賞という結果をいただき、とても嬉しく思いました。しかし、この結果に満足することなく、今後の練習により一層力を入れていかなければならないと強く感じました。

また、他校の演奏を聴くことで、目から、耳から刺激を受け、より音楽的なイメージをふくらませることができたのではないかと思います。なにより、楽しそうに演奏する出場者の姿を見て「やっぱり音楽はいいな。」と、純粹に感じる事ができました。いつの間にか鳥肌が立ち、瞬きもできないくらい感動したのを覚えています。

最後に、東関東大会へ出場するにあたり、たくさんの方々から応援していただき、栃木県代表として演奏できたことを心から感謝しております。

「平成25年度 第19回東関東アンサンブルコンテストに出場して」

ゼーレンフォルクスオーケスタ 鈴木 志乃

アンサンブルコンテストに出場するとなると、打楽器アンサンブルはプレイヤーだけでは成立しません。楽器を運ぶためにトラックが必要で、楽器をホールやステージへ搬入出するスタッフもいなくてはなりません。今回も私たちは、各方面で多くの方々を支えられ、手伝っていただきました。また、社会人グループですので、仕事の合間を縫っての練

習です。編成が大きくなれば、表現の幅は広がりますし迫力も出ます。ですが、プレイヤーの人数が増えるほど、スケジュールの調整は困難です。今年もそんな中でいただけた栃木県代表の枠。関わってくださったすべての方に感謝の気持ちでいっぱいです。

1月26日、君津市民文化ホール。一般部門の東関東支部から全国大会への切符は2枚ですが、それだけではなく、会場には音楽が好きでアンサンブルが好きな大人が集まっていました。夏の吹奏楽コンクールでは、楽器の搬入や搬出後の片付け等で打楽器パートは他の一般団体の演奏をゆっくり聴くことがなかなか難しいのですが、今回のアンサンブルコンテストではそれができ、また、同日開催の中学校部門の演奏も聴くことができ、自分たちとは異なる編成や年代からも学ぶことの多い充実した時間でした。

社会人になり仕事に就いてもなお、楽器を続けるということは容易なことではありません。いいなと思える環境、一緒に合奏を楽しめる仲間、そして何より楽器。いろいろな条件が揃ってこそではないかと思います。でも、卒業と同時に夢中になってきたはずの楽器を手放してしまうのはもったいないです。もっと多くの皆さんに吹奏楽を続けてほしいなと思います。そのために、私たち大人が今よりもっと栃木県の一般バンドを魅力あるものにしていけたらと思います。

「東関東アンサンブルコンテストに参加して」

栃木県立宇都宮中央女子高等学校 2年 佐藤 未悠

1月25日、千葉県君津市で行われた東関東アンサンブルコンテストに、栃木県代表として、打楽器五重奏で出場させていただきました。幸いにも雨など降られず、楽器を組み立てていた時に吹いてきた風が、少々強い程度で済みました。受付をするときには、既に小学生の部が始まっており、緊張で空気が張り詰めていたのを覚えています。本番前には、リハーサル室で音だしができ、最終確認が行えたので、予選よりも気持ちに余裕を持って舞台袖に待機しました。ステージに立った5分間は、本当にあっという間で、その一瞬一瞬に五人が今まで作品に込めてきた思いが音になって伝わっていく感覚があり、アンサンブルの素晴らしさを心から味わうことのできる貴重な時間となりました。練習の成果を十分に発揮することができ、悔いのない演奏をすることができました。演奏後は、他の団体のステージを客席から聴くことができたことも嬉しいことでした。どの団体も圧巻の演奏で心動かされました。

少し、私たちの練習の状況をお知らせしますと、「森の会話Ⅲ」という作品でしたので、まずは実際にお喋りしてみようということになり、合わせの前の会話が日課となりました。この笑いの絶えない、リラックスした雰囲気で行う演奏に入ると、のびのびと演奏できるということを実感し、自分たちも精一杯楽しんで演奏することを心がけました。この君津の舞台に立つまでに、たくさんの大きな困難に直面しましたが、それを乗り越えていくたびに、一人一人が成長でき「五人みんなで」という団結力が高まっていくのを感じました。また、このアンサンブルは多くの方々のご支援がなければ成立しなかったということも痛感しました。ご指導してくださった先生方にも感謝の気持ちでいっぱいです。この貴重な経験を活かして、これからも聴いて下さる方の心に響く音楽づくりに励んでいきたいと思っています。



4 宇河支部スプリングフェスティバル報告

平成25年度 宇河支部スプリングバンドフェスティバル概要報告

宇河支部長 栃木県立宇都宮東高等学校附属中学校 今泉 剛

平成26年2月11日(火・祝)に、第1回宇河支部スプリングバンドフェスティバルを、宇都宮市文化会館大ホールに於いて開催いたしました。宇河支部では、小学生から大人までが一堂に会するイベントが開かれていませんでしたが、参加された皆さんからご好評をいただき、大変良い機会となったと思います。ここで、参加された方々からいただいたお話のいくつかを紹介いたします。(ちなみに27団体が参加し、一般も5団体出演し、好評でした。)

ある小学生の保護者の方からは、「毎年夏のスクールバンドフェスティバルでは中高生の演奏を聴くことができませんが、今回は一般バンドの演奏も聴くことができて良かった。大人になると、こんなにすごい演奏ができるようになるんだということが分かり、子供たちにとっては勉強になるとてもいい機会でした。」とご感想をいただきました。私もかつて一般バンドに所属しておりました。学生時代に楽器を始めて大好きになり、大人になっても続けていました。そうした思い出を持つ大人が子供たちの前で演奏することは、子供たちにとっての大きな目標となることもあり、更には音楽文化の継承にも通ずるところがあると考えます。

また、ある一般団体の参加者の方からは、「児童・生徒さんの演奏を聴くのは久しぶりで、昔を思い出して懐かしくなりました。また、最近の子ども達は昔と違ってみんな上手ですね。」とご感想をいただきました。大人にとっても、子供た

ちの演奏はいろいろな意味で感銘を与えているようです。

吹奏楽連盟に加盟するほとんどの団体が、吹奏楽コンクールや演奏会をメインとして活動されていると思います。コンクールですと同じ部門に参加する団体同士の横のつながりがあります。演奏会は自分たち自身で音楽と向き合い探究するという性質があります。今回のフェスティバルは、そうした活動に加え、小学生から大人までが互いに演奏を披露しあい聞き合うという、縦のつながりを持つ有意義な機会となりました。参加団体数や参加費などの課題がありますが、皆様のご指導を仰ぎながら、今後も宇河支部の吹奏楽の絆をより深めていきたいと思っています。

コンサート情報

第12回栃木県立宇都宮中央女子高等学校吹奏楽部定期演奏会

平成26年3月21日(金・祝) 14時開演 宇都宮市文化会館・大ホール 入場無料

演奏曲目:セドナ, 交響詩「海」より第3楽章, 花は咲く(竹内一樹編曲 委嘱初演) 他

第9回栃木県立石橋高等学校吹奏楽部定期演奏会

平成26年3月23日(日) 14時開演 小山市文化センター・大ホール 入場無料

演奏曲目:フローレンティナー行進曲, 2014全日本吹奏楽コンクール課題曲,
ピアノコンチェルト イ短調よりOp. 16, 映画音楽より「レ・ミゼラブル」, 「ハイスクール・ミュージカル」 他

第1回宇都宮市立星が丘中学校吹奏楽部定期演奏会

平成26年3月27日(木) 14時開演 栃木県総合文化センター・サブホール 入場無料

演奏曲目:バラの謝肉祭, ディズニーメドレー, ディープパープルメドレー 他

第9回栃木県立小山城南高等学校吹奏楽部定期演奏会

平成26年3月29日(土) 14時開演 小山市文化センター・大ホール 入場無料

演奏曲目:マードックからの最後の手紙, Stage Drill 2014~The Wizard of Oz~ 他

第3回East Music Concert (栃木県立宇都宮東高等学校・附属中学校音楽部)

平成26年3月30日(日) 13時半開演 栃木県教育会館・大ホール 入場無料

演奏曲目:吹奏楽 喜歌劇「メリー・ウィドウ」セレクション, ディズニー・メドレーⅡ 他
合唱「Petites Voix (小さな声)」, 木下牧子アカペラ・コーラス・セレクションより

第23回栃木県立大田原高等学校合唱部・吹奏楽部定期演奏会

平成26年3月30日(日) 13時半開演 那須野が原ハーモニーホール 入場無料

スペシャルゲスト:ピアノ 伊藤 伸 2009年第78回日本音楽コンクール ピアノ部門 第1位

演奏曲目:吹奏楽 ラブソディ・イン・ブルー, オリピックマーチ, 千本桜 他

合唱 ~歌劇な男たち2014~いつからか野に立って, じゅびれえしょん, ジブリメドレー 他

宇都宮ウインドクルーコンサート 第16章

平成26年4月27日(日) 14時開演 栃木県総合文化センター・メインホール

入場料/前売り・大人¥800-(当日券は¥1000-) 高校生以下¥500-

演奏曲目:交響組曲「風の谷のナウシカ」3章, 詩的間奏曲, 銀河鉄道999 他

作新学院高等学校吹奏楽部 フレッシュ・グリーンコンサート

平成26年5月31日(土) 13時半開演予定 宇都宮市文化会館・大ホール

入場料/前売り・大人¥800- 高校生以下¥500- (当日券は各¥200-増)

演奏曲目:2014全日本吹奏楽コンクール課題曲, 2014ニュー・サウンズ・イン・プラス,
ステージドリルショー「レ・ミゼラブル」より

問い合わせ先 吹奏楽部090-3318-6826 平日16時~19時 休日9時~18時

第6回宇都宮南高等学校吹奏楽部定期演奏会

平成26年6月1日(日) 13時半開演 宇都宮市文化会館・大ホール 入場無料

演奏曲目:未定

第8回茂木高等学校音楽部定期演奏会

平成26年6月8日(日) 14時開演 芳賀町民会館 入場無料

演奏曲目:未定

第49回真岡高等学校吹奏楽部定期演奏会

平成26年6月15日(日) 14時開演 芳賀町民会館 入場無料

演奏曲目:未定

★すでに3月に開催されたコンサートの紹介★

2014作新楽音会DreamConcert

平成26年3月9日(日)14時開演 栃木県教育会館・大ホール

入場無料

演奏曲目:アルメニアン・ダンス パート1, Bye Bye Violet, アニメ・メドレー久石 譲作品集 他

第8回矢板中央高等学校吹奏楽部定期演奏会

平成26年3月16日(日)13時半開演 矢板市文化会館

入場無料

演奏曲目:ピレネーを越えて, 組曲「宇宙戦艦ヤマト」, マーチング&アンサンブル 他

6 クリニック情報

第45回日本吹奏楽指導者クリニック 2014 JAPAN BAND CLINIC

日時:平成26年5月16日(金)~18日(日)会場:静岡県浜松市・アクトシティ浜松

詳細はホームページで確認をしてください。

◆初級指導者講座◆

バンドスタディⅠ 吹奏楽指導とは?

バンドを指導するうえでの指導理念、楽器の基礎知識、合奏の基本、活動の基本について解説します。

講師: 小澤 俊朗

(日本バンドクリニック委員会代表)

指揮法講座 基礎編

姿勢や基本的な運動などを学ぶ、指揮法の基礎講座です。

講師: 新田 ユリ(指揮者)

初めての吹奏楽指導 レポートリー研究

バンドの編成や目的に合わせた選曲のアイデアや楽譜購入の方法、著作権等について解説し、おすすめの曲を紹介します。

講師: 後藤 洋

(日本バンドクリニック委員会委員)

演奏の前に 木管・金管・打楽器編

演奏前の楽器のチェックポイントについて解説します。

マーチング講座 前編

マーチングをまったくご存知ない吹奏楽指導者のための講座です。「いまさら聞けない」マーチングのイロハから実際のベーシックトレーニングまでを講師が解説します。

マーチング講座 後編

前編の講座をもとに、モデルバンドの演技を通してマーチングの実践的な指導を行います。

講師: 山崎 昌平

(日本バンドクリニック委員会委員)

バンドスタディⅡ 合奏指導法 基礎編

ハーモニーディレクターを効果的に活用しながら、バンドのレベルアップに必要な基礎合奏のポイントについて解説します。

講師: 小澤 俊朗

(日本バンドクリニック委員会代表)

初めての吹奏楽指導 運営編

バンド運営のポイントについて、実際の経験をもとにお話しいたします。

講師: 清野 雅子(愛知県・日進市立日進中学校) 角国 孝広(島根県・大田市立第一中学校)

段 真大(島根県・浜田市立第三中学校)

森下 晃英/草野 美喜子(長崎県・雲仙市立小浜中学校)

コーディネーター: 後藤 洋(日本バンドクリニック委員会委員)

マーチングパーカッション講座

マーチングパーカッションの奏法と練習方法について学びます。

講師: 生乃 久法

(一般社団法人日本マーチングバンド協会公認指導員)

◆中級指導者講座◆

指揮法講座 応用編

2台のピアノを使った楽曲の演奏を通しての実技指導です。

講師: 新田 ユリ(指揮者)

楽器別講座

楽器の構え方や姿勢・呼吸のしかた、各種奏法の紹介、正しいトレーニング方法、バンド全体におけるそれぞれの楽器の特長・位置づけについて、実技を通して解説します。

講師: サクソフォン/福井 健太
(サクソフォン奏者)

コントラバス/石田 常文
(新日本フィルハーモニー交響楽団)

シンバル /飯野 晶子
(打楽器奏者)

ホルン /飯笹 浩二
(洗足学園音楽大学・大学院准教授)

ファゴット/加藤 典靖
(東京ユニバーサルフィルハーモニー管弦楽団)

バンドスタディⅢ 合奏指導法ステップアップ講座

音楽料理法のもととなる表現の基礎について考える講座です。フレーズ、旋律と伴奏のバランス、さまざまな表現の方法を、モデルバンドの演奏を通して学びます。

講師：小野川 昭博
(日本バンドクリニック委員会委員)

レパートリー研究講座

2014年の新譜と話題曲を、モデルバンドの実演とともに紹介します。

講師：小野川 昭博
(日本バンドクリニック委員会委員)

◆上級指導者講座

バンドスタディⅣ 音楽料理法

豊かな音楽へのアプローチ、リズムの表現について、モデルバンドの演奏を通して学びます。

講師：保科 洋
(日本バンドクリニック委員会名誉顧問)

マルコ・ピエロボン トランペット講座

イタリア・ボルツァーノ音楽大学教授でソリストとしても国際的に活躍している、マルコ・ピエロボン氏による演奏法講座です。

講師：マルコ・ピエロボン
(トランペット奏者)

日常練習の公開

「普段どんな練習をしているの？」吹奏楽コンクール全国大会常連校の福島県立湯本高等学校が、日常の練習をすべて公開します。

◆特別講座

楽しいコンサートのための演出と構成

モデルバンドの演奏・演技を通して、ステージにおける効果的な演出と構成について学びます。

講師：石田 修一
(日本バンドクリニック委員会委員)

～第45回記念座談会～

日本吹奏楽指導者クリニックの未来を語る
日本吹奏楽指導者クリニックの45回の歴史を振り返るとともに、バンドクリニック委員会委員並びに顧問が、これからのクリニックが日本の吹奏楽活動に果たすべき役割や今後の展望について、参加者の皆様とともに語ります。

講師：秋山 紀夫(日本バンドクリニック委員会名誉顧問)

丸谷 明夫(日本バンドクリニック委員会顧問)

小澤 俊朗(日本バンドクリニック委員会代表)

コーディネーター：石田 修一(日本バンドクリニック委員会委員)

小編成バンドの合奏指導

少子化に伴い児童・生徒数が減少する中、小編成バンドの指導法の極意を伝授します。

講師：金田 康孝
(日本バンドクリニック委員会委員)

ポップス講座

サクソフォン奏者織田浩司氏が、ジャズ・ポップスの演奏法と楽しいステージづくりについて提案します。

講師：織田 浩司(サクソフォン奏者)

バンド指導に役立つリトミック講座

リズムやテンポ・強弱などの音楽を構成する要素を、実際に身体を使って体験していただきます。バンドの表現力アップにきっと役立つ講座です。

講師：緒形 まゆみ
(元中学校教諭、吹奏楽指導者)

◆小学校指導者講座

小学校指導者講座Ⅰ 資料研究

さまざまな場面で活用できる金管バンドのための楽曲とその活用法を紹介します。同時に金管バンドのサウンドも堪能できます。

講師：座間 吉弘
(バンドディレクター、トロンボーン奏者)

小学校指導者講座Ⅱ 合奏指導法

小学校バンドにおける合奏指導法の実践講座です。

講師：後藤 洋
(日本バンドクリニック委員会委員)

小学校指導者講座Ⅲ みんなで語ろう

「管楽器を活用した授業」「合奏指導の実践」「マーチング活動の実践」「初めての運営」「もっと楽しくコンサート」の5つをテーマとしたワークショップです。

講師：津田 正之(文部科学省教科調査官)

後藤 洋(日本バンドクリニック委員会委員)

田中 久仁明(一般社団法人日本マーチングバンド協会理事長)

桜井 聖子(全日本小学校管楽器教育研究会会長)

水口 透(バンドディレクター、トランペット奏者)

※Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの講座は関連して行われます。

◆その他

相談コーナー

クリニック委員をはじめ、出演講師による相談コーナーです。楽曲・編成などの相談から、バンド運営に至るまで、個別にご相談いただけます。

出展ブース

全国の大学・専門学校や、音楽関連の出版社、各種団体がブースを出展します。この機会にぜひお立ち寄りください。会期中は常時、出展を行っています。

楽譜・CDの展示販売

吹奏楽譜・アンサンブル譜などを多数展示しておりますので、その場でご購入いただくことができます。会期中は常時、展示・販売を行っています。

楽器展示・試奏

共催の株式会社ヤマハミュージックジャパンが楽器展示を行います。楽器の試奏も可能ですので、試奏ご希望の方は必ずマウスピースをご持参ください。会期中は常時、楽器展示を行っています。

管楽器工場見学

◆ 5月16日(金)実施 ヤマハの管楽器工場見学ツアーにご参加いただけます。参加ご希望の方は、事前にお申し込みいただき、当日、参加費¥1,000をお支払いください。

交流会

◆ 5月16日(金)実施 全国の吹奏楽指導者と親睦を深める場・情報交換の場としてご利用ください。当日、アクトシティ浜松中ホールロビーにてチケットを販売いたします。

◆オープニングコンサート(5月16日)

会場 サンクン広場(雨天の場合は中ホール)

出演 玉名女子高等学校吹奏楽部

◆ウェルカムコンサート(5月16日)

会場 アクトシティ浜松大ホール

出演 出雲市立第一中学校吹奏楽部

玉名女子高等学校吹奏楽部

◆イブニングコンサート(5月17日)

会場 アクトシティ浜松大ホール

出演 福島県立湯本高等学校吹奏楽部

陸上自衛隊中央音楽隊

◆ファイナルコンサート(5月18日)

会場 アクトシティ浜松大ホール

出演 尼崎市吹奏楽団

姫路市小学校合同バンド(高浜小・城西小・城陽小)

陸上自衛隊中央音楽隊

編集後記

栃木県吹奏楽連盟副理事長 広報部長 三橋 英之(作新学院高校)

2013年の7月に全国高校野球選手権栃木県大会の決勝戦で、作新学院高校野球部は9回2アウトランナーなしで万事休す敗色濃厚の状況から見事に逆転勝利を演じ、3年連続甲子園の土を踏み、活躍しました。最後の最後まで諦めずにプレーした選手の粘りが相手を上回ったのは言うまでもないことですが、炎天下の中で勝利を信じて声をからして懸命に応援した多くの人たちの存在を忘れてはなりません。その中には当然のことながら吹奏楽の演奏も含まれます。今では騒音の問題から味方の攻撃時にしか演奏は出来ませんが、(もっとも相手の攻撃時にも演奏し続けたら、何人倒れてしまうことか...)選手たちに勇気を与え、攻撃時のチャンスメイクに大きく貢献したかと思います。吹奏楽の活動はやはり多岐にわたって活躍できる場面が多いですね。ただ、夏休み中は吹奏楽コンクールとの兼ね合いから、応援のやりくりには頭の痛いところですが...(でも部員はやはり甲子園での応援は格別なようで、応援には行きたいようです。)

ところが、今回の甲子園の初戦がコンクールの出演日と重なってしまい途方に暮れました。かつて部員が多かった時代には考えもしなかったことですが、応援に穴を開けることは出来ません。そこで、また吹奏楽のネットワークのすごさを知ります。「大阪市立扇町総合高校」が友情応援を引き受けてくれたのでした。扇町総合高校は甲子園の開会式で演奏している団体の一つです。短い準備期間ではありましたが、作新の校歌や応援曲の全てを暗譜で演奏しました。しかも全くのボランティアです。そして、その後の2試合も応援に駆けつけてくれました。吹奏楽活動は支え合う姿勢が演奏に大きく影響しますが、自分たちの選手を応援するかのごとく真剣に演奏してくれたことに吹奏楽の仲間の大切さを改めて感じたところです。(ちなみに大阪府では野球の応援には鳴り物が禁止だそうで、野球の応援で演奏したことがないそうで、良い機会を得られたと言っていました。)

諦めずに上手くなろうとする姿勢と仲間を大切に作る姿勢を改めて感じた夏でした。

吹奏楽の活動は日頃から皆の共同作業で成り立っています。楽しくやりがいい感じる活動を続けましょう。

また、広報誌に対する要望・意見・感想などお待ちしております。是非お寄せください。